

はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、多くの貴い命を奪い、多数の避難生活者を産み出しました。その中であって、視覚障害者は目が見えない、あるいは目が見えにくいことによって、より一層避難のための行動や避難所などでの生活において多くの困難を強いられました。そもそも視覚障害者は、日常生活を営む上で、大きなハンディを持ち、「移動」と読み書きは視覚障害者にとって二大不自由とされています。視覚障害者の多くは、命懸けと言っても過言ではない決意で外出しなければなりません。

とりわけ災害時に視覚障害者がどのように難を逃れたのか、目が見えない中でどのようにして避難所にたどり着いたのかなどを、東日本大震災の被害を受けた視覚障害者の方々から聞き取りし、多くの体験に基づき、この視覚障害者のための防災・避難マニュアルを作成しました。

視覚障害者のハンディや日常生活ないし社会生活における困難を日頃から理解していただければ、災害において避難する場合や避難所での生活での確かな支援を受けることはできません。視覚障害は「情報障害」にほかなりません。教育においても、外出などにおける移動時も、家庭での生活においても、そして就労などの場面においても、常に必要とされる情報が得られないことが、視覚に障害があるということなのです。したがって、視覚障害者に必要とされる情報を的確な方法で提供していただくことが必要なのです。

国民が「見えない」、「見えにくい」ことを正しく理解していただくことが何よりも重要です。そして、視覚障害者に日頃から声を掛けていただきたいと思います。視覚に障害があることによって、災害を逃れることができずに尊い命が失われることがないことを切に願います。視覚障害に対する国民の理解や視覚障害者が地域と結びつくことによって、災害時にも支援が受けられることが、このマニュアル作成の目標です。